

仕様書

1. 件名

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／自動運転（システムとサービスの拡張）／イベント等による社会的受容性の醸成効果測定に関する調査」

2. 目的・背景

総合科学技術・イノベーション会議(以下、「CSTI」という。)は、「イノベーションに最も適した国」を創り上げていくための司令塔機能を強化する観点から、府省間の縦割り排除、産学官の連携強化、基礎研究から出口までの迅速化のためのつなぎ等により直接的に行動していくための予算として、平成26年度から、「科学技術イノベーション創造推進費」（以下、「推進費」という。）を調整費として新たに創設し、内閣府に計上してきている。

国家的に重要な課題の解決を通じて、我が国産業にとって将来的に有望な市場を創造し、日本経済の再生を果たしていくことが求められているなか、「戦略的イノベーション創造プログラム」（以下、「SIP」という。）は、各府省の取組を俯瞰しつつ、更にその枠を超えたイノベーションを創造するべく、CSTIが、戦略的に鍵となる技術の開発等の重要課題の解決のための取組に対して、推進費を原資として、府省の枠にとらわれず自ら重点的に予算を配分するプログラムである。

SIP第2期は、当初計画を前倒して、平成29年度補正予算により平成30年度より開始し、府省・産学官連携、出口戦略の明確、厳格なマネジメント等の優れた特徴を維持しつつ、国際標準化、ベンチャー支援等の制度改革の取組をさらに強化したものである。

SIP第2期において、CSTIは、取り組むべき課題として12分野を定めており、そのうちの一つである自動運転（システムとサービスの拡張）（以下「SIP-adus」という。）においては、自動運転に係る激しい国際競争の中で世界に伍していくため、協調領域として取り組むべき世界最先端のコア技術（信号・プローブ情報をはじめとする道路交通情報の収集・配信などに関する技術等）を確立し、一般道で自動走行レベル3を実現するための基盤を構築し、社会実装することを目指している。また、自動運転に対しては交通渋滞の削減、高齢者や移動制約者の移動手手段の確保といった社会的課題の解決や、物流や移動に係る新たなサービスやビジネスの創出等などが期待されている。

自動運転の普及においては、交通参加者に対して、自動運転により得られる便益や効用だけでなく、生じ得るリスクについても明らかにし、自動運転に関する将来像やルール等を含めた全体像について、市民等への理解増進を図る等、社会全体の認知度の向上と正しい理解を得る必要がある。このためには、継続的な情報発信や国民との双方向のコミュニケーションを積み重ねていくことが重要である。

中でも、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催時期に合わせて、東京臨海部において計画されている実証実験の場は、自動運転に関する正しい理解を促進す

るための取組を実施する絶好の機会である。

そこで、本調査においては、「社会的受容性の醸成に向けた戦略策定と評価に関する調査」による行動計画を受け、具体的なイベント等を計画・運営し、そのイベント等の社会的受容性の醸成効果を測定する。

3. 調査内容

以下、(1)～(3)のイベント等を計画・運営し、そのイベント等の社会的受容性の醸成効果を測定すること。

(1) SIP 自動運転デモイベント（仮称）

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地域である東京臨海副都心で、日本自動車工業会（以下、自工会）と連携して市民向けのデモイベントを実施すること。概要は以下の通り。

【概要】

- ・ 日程：2020年7月6日(月)～12日(日)
- ・ 場所：東京臨海副都心
- ・ 内容：(ア)展示、(イ)試乗体験会、(ウ)シンポジウム等

上記について、以下の(1-1)～(1-3)の仕様を満たすこと。

(1-1) 計画策定

以下、(a)～(d)を具体化すること。

(a) 工程計画策定

事前準備から撤収までの工程計画を策定すること。

(b) 会場計画策定

会場計画について、自工会との連携による相乗効果を考慮して策定すること。計画に基づき、会場を事前に手配すること。

(c) 登壇者計画策定

シンポジウム等の登壇者計画を策定すること。計画に基づき登壇者とスケジュールを事前に調整すること。

(d) 内容計画策定

(ア)～(ウ)の内容について計画を策定すること。策定にあたり、自工会と連携し相乗効果が高くなるよう取り組むこと。

(ア)については、自動運転による将来の社会像、技術や法制度等の最新情報、実証実験の結果、等をパネルや映像等で展示すること。他のイベントや、SIP自動運転の他施策（「社会的受容性の醸成に向けた戦略策定と評価に関する調査」等）で作成済みの印刷物等や動画を活用することで費用圧縮や期間短縮を図ること。展示物については、例えば英語のキャプションなど、海外の方が理解しやすいよう工

夫すること。

(イ)については、東京臨海副都心地域の住民の方への試乗体験機会を設けること。

(ウ)について、平日に専門家向け、土日に一般向けのシンポジウム等のイベントを実施すること。

(1-2) 運営

(1-1)で策定した計画に基づき運営すること。具体的には以下(a)~(g)の通りとする。

(a)会場設計

受付、ブース展示、関係者控室、事務局用控室等を配置すること。

(b)会場設営及び撤去

必要な物品購入や配送等も含めて設営及び撤去を実施すること。

(c)運営マニュアル及びロジック作成

関係者間の情報共有のため必要事項をまとめること。

(d)写真及び映像撮影

会場の様子がわかるように写真及び映像で撮影すること。

(e)付帯業務

全体進行管理、照明・プロジェクター・スピーカー等映像・音響機器操作、参加者・出展者・招待者等からの当日の要望等への対応、会場の案内及び誘導・会場整理、参加者等の受付、来場者数のカウント、当日作成資料の作成補助・印刷・配布、等

(f)取材対応

メディアからの取材対応等を実施すること。

(g)報告

来場者数、来場者の反応、シンポジウム等の結果まとめ、等を報告すること。また、写真や映像も報告すること。

(1-3)効果測定

展示、試乗体験会、シンポジウムの参加者に対してアンケート等による社会的受容性の醸成効果の測定を実施し報告すること。なお、効果測定の方法については、アンケート以外の手法も提案すること。

(2) 人とくるまのテクノロジー展 2020

市民及びメディアに対する理解増進を目的として、市民ダイアログとガイドツアーを実施すること。概要は以下の通り。

【概要】

- ・ 日程：2020年5月20日(水)~22日(金)
- ・ 場所：パシフィコ横浜
- ・ 内容：(ア)市民ダイアログ、(イ)ガイドツアー

上記について、以下の計画策定、運営、及び効果測定を実施すること。

(2-1) 計画策定

以下、(a)～(d)を具体化すること。

(a)工程計画策定

事前準備から撤収までの工程計画を策定すること。

(b)会場計画策定

会場計画を策定すること。計画に基づき、会場を事前に手配すること。

(c)登壇者計画策定

市民ダイアログ、ガイドツアーの登壇者計画を策定すること。計画に基づき登壇者とスケジュールを事前に調整すること。

(d)内容計画策定

(ア)、(イ)の内容について計画を策定すること。

(ア)について、市民の興味関心を引く工夫（テーマ、等）を図ること。

(イ)について、ジャーナリスト等の専門家によるガイドツアーとすること。

(2-2) 運営

(2-1)で策定した計画に基づき運営すること。具体的には以下(a)～(g)の通りとする。

(a)会場設計

受付、ブース展示、関係者控室、事務局用控室等を配置すること。

(b)会場設営及び撤去

必要な物品購入や配送等も含めて設営及び撤去を実施すること。

(c)運営マニュアル及びロジック作成

関係者間の情報共有のため必要事項をまとめること。

(d)写真及び映像撮影

会場の様子がわかるように写真及び映像で撮影すること。

(e)付帯業務

全体進行管理、照明・プロジェクター・スピーカー等映像・音響機器操作、参加者・出展者・招待者等からの当日の要望等への対応、会場の案内及び誘導・会場整理、参加者等の受付、来場者数のカウント、当日作成資料の作成補助・印刷・配布、等

(f)取材対応

メディアからの取材対応等を実施すること。

(g)報告

来場者数、来場者の反応、市民ダイアログ、メディアガイドツアーの結果まとめ、等を報告すること。また、写真や映像も報告すること。

(2-3)効果測定

市民ダイアログ、ガイドツアーの参加者に対してアンケート等による社会的受容性

の醸成効果を測定し報告すること。なお、効果測定の方法については、アンケート以外の手法も提案すること。

(3) 地域での市民ダイアログ

自動運転の実証実験が検討・実施されている。このような地域において、市民ダイアログを1回以上実施すること。日程、場所、内容については、内閣府/NEDOと協議して決めること。

以下の計画策定、運営、及び効果測定を実施すること。

(3-1) 計画策定

以下、(a)～(d)を具体化すること。

(a) 工程計画策定

事前準備から撤収までの工程計画を策定すること。

(b) 会場計画策定

会場計画を策定すること。計画に基づき、会場を事前に手配すること。

(c) 登壇者計画策定

登壇者計画を策定すること。計画に基づき登壇者とスケジュールを事前に調整すること。

(d) 内容計画策定

協議して決めた内容について計画を策定すること。

(3-2) 運営

(3-1)で策定した計画に基づき運営すること。具体的には以下(a)～(g)の通りとする。

(a) 会場設計

受付、ブース展示、関係者控室、事務局用控室等を配置すること。

(b) 会場設営及び撤去

必要な物品購入や配送等も含めて設営及び撤去を実施すること。

(c) 運営マニュアル及びロジック作成

関係者間の情報共有のため必要事項をまとめること。

(d) 写真及び映像撮影

会場の様子がわかるように写真及び映像で撮影すること。

(e) 付帯業務

全体進行管理、照明・プロジェクター・スピーカー等映像・音響機器操作、参加者・出展者・招待者等からの当日の要望等への対応、会場の案内及び誘導・会場整理、参加者等の受付、来場者数のカウント、当日作成資料の作成補助・印刷・配布、等

(f) 取材対応

メディアからの取材対応等を実施すること。

(g)報告

来場者数、来場者の反応、市民ダイアログの結果まとめ等を報告すること。また、写真や映像も報告すること。

(3-3)効果測定

来場者、体験会、市民ダイアログの参加者に対してアンケート等による社会的受容性の醸成効果を測定し報告すること。なお、効果測定の方法については、アンケート以外の手法も提案すること。

<調査に向けた留意点>

本調査を実施する上で、内閣府/NEDO、「社会的受容性の醸成に向けた戦略策定と評価に関する調査」の受託者と連携した上で対応すること。連携のための定例会やコミュニケーション等の活動計画についても具体化して提案すること。

4. 全体スケジュール（案）

	2020年												2021年				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
(1) SIP自動運転デモイベント（仮称）	→ 計画策定			▲													
		→ 運営			→ 効果測定												
(2) 人とくるまのテクノロジー展2020	→ 計画策定	▲															
		→ 運営		→ 効果測定													
(3) 地域での市民ダイアログ	協議の上、具体化すること																

5. 業務期間

NEDO が指定する日から 2021 年 2 月末日まで

6. 予算額

93 百万円以内

- 契約額は、審査の結果及び国の予算の変更等により、提案額から減額することがあります。
- 以上の予算額は 3.の全項目を受託した場合の予算額になります。

7. 最終報告書

- ・ 提出期限：2021 年 2 月末日
- ・ 提出部数：電子媒体 CD-R（PDF ファイル形式） 1 部
- ・ 提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

8. その他事項

- ・ 委託期間中又は委託期間終了後に、報告を依頼することがある。